



信用と信頼

校長 富田 操

新しい年2023年が始まりました。今年も教職員一同、全力で子どもたちに向き合っていきます。昨年同様の力強いご支援をいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

さて、私たち教職員が「教育に関するプロとしての一番の強みは何か？」と問われると、私は、最も大きい強みは、「子どもをかなり深いところで信頼することができること」だと答えられる、と思っています。

「子どもを信じる」などと言うと、「子どもは正しく、うそをつかない存在だ」というような「信用」と思われるかもしれませんが、そうではありません。いや、むしろどちらかと言うと「子どもは日常的に間違いをたくさんおかし、うそも時々ついてしまう」存在だと思っています。つまり、子どものことをそれほど「信用」はしていないのです。

なぜなら、私たち教職員は多くの子どもを毎日・毎時間、しかも長時間観察し続けているからです。これほど、「子ども」というものを見続けている人間はおそらく他にはいないでしょう。ですから、その経験をもとに子どもの「現実や実態」はよく分かっているつもりです。

しかし、それと同時に、これほどずっと子どもを見続けているからこそ、はっきり言えることは「子どもは間違いなく『信頼』に値する存在だ」ということです。

子どもは間違いをおかします、そして時にうそをついてしまうこともあります。しかし、「自分の間違いに気づいたとき、必ず間違いから学び、より良いものに改善していくことができる存在である」ということや、うそをついてしまうこともあります。しかし、「それを子どもが正しく自分で認めた上で、指導したり助言したりすれば必ず反省し、次には正直でいよう、正しいと思えることの方を選択しよう、と変わっていくことができる存在である」ということ、を心の底から『信頼』しています。

その信頼の深さはどこから来るかというところ、「子どもが良くなっていく姿」を何度も何度も目の当たりにして、腹の底から実感しているからです。だからこそ、私たちはその絶対的な信頼をもとに子どもの成長を待つことができます。だからこそ、私たち教職員は何度上手いかななくても、「次は必ず良くなる」と信じ続けて子どもたちの前に立つことができます。

そして、大人になった自分にはもう望めないほど大きな、子どもの「良くなるんだ」という気持ちへの信頼から、まぶしさをもって子どもたちを見つめ、尊敬することができます。

子どもへの信頼をもとに、子どもと一緒に困難なことにも向き合って乗り越えていく覚悟をもち今年もスタートを切りたいと思います。保護者の皆様や地域の皆様が同じ気持ちで、学校と共に子どもに向かい合ってくださいたら、これ以上心強いことはございません。

どうぞ今年も、よろしく願いいたします。